

相次ぐ米軍艦入港で反故の「平和利用決議」 「非核証明書」で実効あるものに

大阪港が15日、開港150年を迎えました。港湾施設等では各種イベントが行われていきます。日ごろ、商業港として、観光スポットとしても市民に親しまれている大阪港。市民は平和な商業港で発展してほしいと願っています。

大阪港開港は1868(慶応4年)7月15日。以来、関西の商業港として発展してきました。

侵略戦争の兵站基地に

日清・日露戦争を経て、中国への



天保山西の岸壁から見た大阪港。左に中央突堤、その奥に旧WTCビルが見えます。

開港150年 大阪港は平和な港で発展を

大阪港に入港した米軍艦と非核化・平和利用をめぐる動き

1981年	5月	ライシャワー元駐日大使が米軍艦が核兵器を搭載したまま日本に寄港していたと発言
86年	2月	岸知事が核搭載艦船寄港は非核三原則に含まれないなどとして日本寄港を擁護する一文を財界系雑誌に掲載
87年	3月17日	府議会が共産党提出の非核平和都市宣言案と核艦船入港拒否決議案を否決。非核を抜いた国際平和都市大阪宣言を採択
94年	10月21日	ミサイルフリゲート艦「クロムリン」入港
94年	11月9日	大阪市議会が「大阪港の平和利用に関する決議」を全会一致で可決
96年	8月31日	ミサイルフリゲート艦「マクラスキー」入港
98年	4月17日	ミサイル駆逐艦「カーチス・ウィルバー」入港
00年	10月6日	ミサイル巡洋艦「ウィンセンス」入港
02年	4月14日	第7艦隊旗艦「ブルー・リッジ」入港
03年	5月31日	ミサイル巡洋艦「カウペンス」入港予定も天候不良で取りやめ
04年	3月6日	「カーチス・ウィルバー」入港
06年	4月3日	「カーチス・ウィルバー」入港
07年	3月1日	ミサイル駆逐艦「ステザム」入港
08年	4月12日	ミサイル駆逐艦「チェイフィー」入港
	11月21日	ミサイル駆逐艦「ラッセン」入港
09年	4月23日	ミサイル駆逐艦「ジョン・S・マッケイン」入港
	9月	民主党政権が核密約について調査。明文化されていないものの核密約があったと結論づける(10年3月に調査内容を公表)
11年	5月13日	「ブルー・リッジ」入港
13年	10月26日	「カーチス・ウィルバー」入港
14年	4月10日	ミサイル巡洋艦「レイク・エリー」入港
	2月24日	「ブルー・リッジ」入港
16年	7月6日	掃海艇「パトリオット」入港

侵略戦争が本格的に始まり、大阪港は商業港とは別の役割を果たすようになっていきます。

り、日本国憲法が成立し、大阪港は商業として再び発展します。

米軍艦の入港が相次ぐ

ところが1994年、米軍ミサイルフリゲート艦「クロムリン」が大



阪港に入港しました。米軍艦の入港は27年ぶりのことで、平和団体が大阪市に入港を拒否するよう求める運動を繰り広げましたが、同艦は10月21日に南港に入港しました。

この入港は大きな反響を呼びました。入港から約2週間後、大阪市議会は「大阪港の平和利用に関する決議」を全会一致で可決します。同決議は、「大阪市民は港の平和利用を強く念願して」おり、「大阪港が核兵器持ち込みを拒否する世界に開かれた平和な貿易港として運営されるよう強く要望する」としています。世論を反映したものでした。

甚大な被害を受けた港

そのため大阪港は、砲兵工廠や日本軍第4師団司令部のあった大阪城周辺とともに、米軍の最大の目標となりました。1945年3月14日の大空襲などで甚大な損害を受けました。太平洋戦争で大阪湾には機雷が600以上敷設され、3千隻以上の商業船が沈没。港湾地帯の建物の焼失は90%に上りました。(昭和大阪市史)。

大阪市の人口は戦争が始まる前は273万6千人でしたが、終戦直後は105万人と4割弱に激減。最も人口が減ったのは浪速区でわずか4%でした。次いで減ったのが港区で6%。21万人を超える人口でしたが、わずか1万3千人弱に減りました。15万7千人が被災、4万人が疎開したためです。

太平洋戦争が日本の敗戦で終わ



写真上)02年4月に大阪港に入港した「ブルー・リッジ」と抗議する市民。写真右上)「ブルー・リッジ」入港の際に警戒していた米兵。自動小銃を携帯しています。



98年4月に入港した「カーチス・ウィルバー」の一般公開の様子。

ところがわずか2年後、ミサイルフリゲート艦「マクラスキー」が入港します。以後も毎年のように米軍艦が大阪港に入港しました。02年には米第7艦隊の旗艦艦隊の命令を発令する艦船「ブルー・リッジ」までもが入港しました。

大阪港には昨年、ミサイルフリゲート艦「パトリオット」が入港しています。

これら入港した艦船の多くはイギリス艦。大量破壊兵器があるとイラクに侵攻したイラク戦争(03年)11年などに参加した艦船も多数です。

「核の有無答えられぬ」

クロムリンの副艦長は報道陣に、「核の有無は答えられない」「核はプリーフェースにも入る。どんな船にも載せられる」と冗談めかして話しました(読売「94年10月22日付」)。

大阪港には、米軍艦を上回るペースで自衛艦が入港しているほか、米国外の軍艦も入港しています。

近隣の神戸港には、米軍艦は入港していません。大阪港との決定的な違いは、「非核神戸方式」です。入港の際には「非核証明書」の提出を義務付けるもので、この方式を取って以後、米軍艦は神戸港に1隻も入港していません。「大阪港の平和利用に関する決議」後も続々と米軍艦が入港する大阪港との差は、歴然です。

非核神戸方式の採用を

国連は今年、核兵器禁止条約を採択しました。加盟国の3分の2が賛成し、世界は核兵器なき世界へ新たな一歩を踏み出しています。

「大阪港が核兵器持ち込みを拒否する世界に開かれた平和な貿易港として運営される」(大阪港の平和利用に関する決議)ためには、「非核神戸方式」を採用することが不可欠です。この問題で申し入れや宣伝、抗議行動を繰り返してきた平和団体や日本共産党は、「非核神戸方式」の採用を大阪市に求めています。